



宮城県中学校長会

# 会 報

## 令和元年度 宮城県中学校長会 第70回総会開催される



### 総 会 概 略

5月31日（金）、新会員31名（新任25名）を含め、総勢132名が一堂に会し、第70回宮城県中学校長会総会・研修会がホテル白萩を会場として盛大に開催されました。鈴木一史会長の挨拶に続き、宮城県教育委員会教育長伊東昭代様からご祝辞を頂戴しました。

今回退職された31名を代表して、前会長である志小田美弘様へ感謝状と記念品が贈呈され、代表挨拶として、「何を不易とし、何を流行と捉えるか。時代の歩みの中で、受け継いで着た良き教えを広め、次代につなぎ、そして行く道を照らすという「燈々無尽の教え」のとおり、松明のバトンを準備していくことが校長には求められている・次の世代に渡すバトンを丁寧に準備し、そのバトンを受け取ってもらえるよう「実践的専門家集団」として、健康に留意しつつ、研鑽を誠実に続けていっていただきたい。」と話されました。

新会員紹介、全日中会員証の贈呈後、大河原町立金ヶ瀬中学校の大内恵美校長が「学校現場に直面している教育課題に全力で取り組んでいきます」と決意を表明しました。

続いて、前年度と今年度の事業及び会計の報告後、宣誓文について承認され、宣言・決議文を力強く読み上げました。庄司毅副会長の挨拶で午前の部は終了し、午後は、研修会として、教育庁各課・室から教育行政について説明・質疑応答が行われた後に、奥野光正副会長の閉会の挨拶で閉会となりました。



あいさつ

宮城県中学校長会  
会 長

鈴木 一 史

新年度のスタートからあつという間に2か月が経過いたしました。各地区におかれましてはもうすでに中学校総合体育大会を開催したところやこれからというところもあり、各学校においては、忙しい中でも様々な行事を行いながら生徒の成長を感じ始めているところかと思えます。

5月に開催されました理事会において、今年度の会長に選出されました名取市立増田中学校の鈴木一史でございます。今年1年間ご支援・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、本日は、公務ご多用の中、宮城県教育委員会教育長、伊東昭代様をはじめ、本庁各課室、関係団体、そして歴代の校長会の会長の皆様方のご臨席を賜り、第70回宮城県中学校長会総会を盛大に開催できますことに会員一同、心から感謝を申し上げますとともに、このように今年度の中学校長会がスタートできますことを大きな喜びとするところであります。

はじめにこの3月をもちましてご勇退されました31名の各校長先生方におかれましては、長きにわたって宮城県の教育振興に大変なご尽力をいただきました。これまでの本会へのご理解とご支援、ご協力に対しまして心から感謝を申し上げます。皆様の今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも後に続く我々後輩の校

長、そして中学校長会への変わらぬご支援を賜りますよう改めてお願いを申し上げます次第でございます。



この度、本会においては、中学校長としてご昇任された25名の新会員をお迎えしています。7年前、わたくし自身校長に昇任した際、勤務した市の教育長先生から、「校長は一国一城の主であるとともに、地元の名士であるので、その意識を持って頑張ってもらいたい。」という励ましの言葉をいただいたことを覚えています。めまぐるしい社会変化の中で、中学校教育の経営を担う校長職は、様々な決断と対応が迫られます。悩むことも多くありますが、職におごることなく夢を語り、教職員や子供たちの成長する姿に喜びを感じながら職務にあたるのが校長職のやりがいであると考えます。そして我々校長には、この中学校長会の仲間がいて、各地域には助け合い、支えあう校長会のネットワークがあります。安心してお力を発揮していただきますようお願いいたします。

また、宮城県中学校長会は、本日節目の70回目の総会を迎えました。昭和、平成、令和と時代



は変わりましたが、その目的は不変です。会則の第3条に示しているように「本会は県内各地区中学校長会相互の連絡提携を図り、中学校教育の全領域にわたる当面する課題の検討や研究協議、関係機関への提言や情報発信を行い、本県教育の振興に寄与する」こと、これがこの会の目的です。これまでこの会の運営にあたっていただいた諸先輩から受け継いできたことを改めて確認していただければと存じます。



先日、全日本中学校長会、略称全日中の総会に参加して参りました。総会においては、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする関係法規、学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の進化を示さなければならないことや、全日中は教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の信託にこたえることを宣言していること。



そして、今年度の活動方針の前文において、次のようなことが述べられています。

激動する国際社会において、我が国では21世



紀にふさわしい持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。教育界においては、教育基本法及び教育関連法規の改正、教育再生会議の諸提案、教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められるなど、学校教育は新たな変革の時期を迎えている。

私たち中学校長は、学校教育の課題を踏まえ人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進し、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、学校からの教育改革を実行する。このことを実現するため、本来、学校が担うべき業務の精選・明確化により、「学校における働き方改革」を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮しなければならない。

また、東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実や災害の風化防止に向け、引き続き組織を挙げて全力で支援する。併せて、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、全国の各学校の防災教育・安全教育のさらなる充実を図る必要がある。



その他にも「部活動における指導ガイドライン」に係る指導の在り方とその改善、喫緊の課題である「いじめ問題」や不登校対策等、学校を取り巻く教育課

題が山積していることは、本日まで参加の皆さんは十分に承知されていることとあります。そしてそれは広くさまざまな組織との連携協力などが求められる場合もありますが、今年1年、地区校長会、理事会等の場を通して皆様の叡智を結集しながら、教育課題の解決と宮城県の教育充実・発展の為に共に取り組んでまいりたいと考えています。



県教育委員会の組織改編に伴って、5教育事務所に再編されたことによって該当の地区校長会、併せて小学校長会等との連携も図りながら、昨年度検討を進めた役員などについての会則改正も提案させていただきますので、改めてご参会の校長先生方のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

結びになりますが、これまで述べてきたように教育課題は山積しておりますし、先日の川崎市の事件などを踏まえて安全・安心な学校づくりの体制の見直しを図る必要も喫緊の課題ととらえております。宮城県教育委員会並びに市町村教育委員会のご指導をいただきながら、江戸時代の儒学者であります佐藤一斎の「春風をもって人に接し、秋霜をもって自ら慎む」という言葉を大切にし、宮城県中学校長会の会員が相互に研鑽を深めつつ、宮城県の教育の一層の充実と発展に貢献することを改めて誓いまして、開会の挨拶といたします。





## 祝 辞

宮城県教育委員会

教育長

伊 東 昭 代 様

本日、県内の中学校の校長先生方が一堂に会し、令和元年度の総会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

中学校長会の皆様におかれましては、本県の教育振興のために、先頭に立ってご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

東日本大震災から8年が経過しましたが、校長先生方をはじめとする教職員の皆様の熱意と努力により、本県の学校教育が復興に向け確かな歩みを進めております。

宮城の教育振興を進めていくために、中学校長会の皆様にはこれまでも増して、生徒の目線にたった教育推進の先導役を担っていただくことをご期待申し上げます。

本日は、私から直接中学校の校長先生方にお伝えできる貴重な場でもありますので、少しお時間



をいただいて、4点に絞って話をさせていただきます。

1点目は、「みやぎの志教育」の推進についてです。

今年度は、志教育がスタートして10年目という節目の年となります。志教育を通して、子どもたちの社会性や勤労観、職業観の涵養を図るとともに、知・徳・体のバランスの取れた人格の形成

を促し、生きる力を育み、ふるさと宮城の復興、発展に力を発揮する人材育成へと結びつくような取組が展開されることを期待しております。

2点目は、生徒の「心のケア・いじめ・不登校等」に係る指導の充実についてです。

県教育委員会では、「心のケア・いじめ・不登校等対策支援チーム」を中心に、「児童生徒の心のサポート班」を東部教育事務所、大河原教育事務所に設置するなど、相談機能の拡充を図ってまいりました。



また、市町村が運営する「みやぎ子どもの心のケアハウス」を今年度は28市町に拡充し、不登校や休みがちな児童生徒及び家庭への直接的な支援体制の充実を図っております。

各中学校におきましては、このような体制を有効に活用し、困っている生徒や保護者に寄り添い、支えていただきたいと思います。

3点目は、「教員の教科指導力の向上」についてです。

児童生徒の学力向上のためには、教員の教科指導力の向上が欠かせません。

今年度も、指導主事学校訪問を中心に、市町村や学校の支援をより充実させていきたいと考えております。

また、校長や指導主事を経験した方を「非常勤指導主事」として各事務所に1名から2名配置し、指導力向上のための支援や助言を強化してまいります。さらに、県全体で「学力向上指導員」を約80人配置し、実践的な指導力向上を図ってまいりたいと考えております。

4点目は、「信頼される安心で安全な学校づくり」についてです。

校長先生方の指導の下、不祥事防止に向けて全



力で取り組んでいることとは思いますが、残念ながら教職員による不祥事は後を絶ちません。学校への信頼、教職員の信用を失うような行為は、ただの一人であっても許されません。校長先生方には責任をもって、服務規律の確保を行っていただくことをお願いします。

また、生徒の命と安全を守ることは、学校の最大の責務であります。東日本大震災の厳しい教訓を基に、各学校において学校安全の強化に向けた不断の見直しを引き続き行っていただきたいと思えます。

さらに、部活動の在り方についても配慮願います。生徒の心身のバランスの取れた健全な成長のためにも、「部活動での指導ガイドライン」に沿って、適正な活動時間の設定と適切な指導の徹底をお願いします。

以上4点、お話しいたしました。

結びになりますが、重責を担う校長先生方ご自身の健康に留意され、将来の宮城を担う生徒の健全な成長のためにご尽力なさることをお願い申し上げますとともに、宮城県中学校長会の一層のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 宣 言

今日、わが国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

我々は、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の信託に応える決意である。

ここに、第70回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

## 決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。
- 一 新学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会から信頼される、開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 学校が担うべき業務の精選・明確化により働き方改革を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。

令和元年5月31日

宮城県中学校長会

---



---

 新 任 抱 負
 

---



---



## 『強み』を生かして

大河原町立金ヶ瀬中学校長  
大内 恵美

私にとって金ヶ瀬中学校は2度目の勤務。3年前まで、主幹教諭として授業や部活動、防災教育等を生徒たちと一緒に進めていた、記憶に新しい学校です。昨年度末に「勤務校は金ヶ瀬中。」と告げられたときは、大きな驚きと小さな喜びが複雑に絡み合った感情が沸き上がりました。

4月1日、着任の日。学区内に新しい住宅が増えているのを眺めながら学校へ。生徒の明るく元気でさわやかなあいさつと拍手に出迎えられ、その清々しい笑顔は変わっていませんでした。校舎は花と緑がいっぱいで、より一層潤いを感じました。

4月8日、入学式。ご列席いただいたご来賓の方々や保護者の皆さま方から「お帰りなさい。」とお声を掛けていただき、うれしく思うのと同時に、改めて職責の重さとその言葉に込められた『期待』を強く実感いたしました。子供たちが育つ基盤となる家庭の安定と地域の連携・協力も変わっていません。これが私の学校経営の『強み』です。この『強み』を生かさなければ・・・。

今年度、オリパラ事業として、「1964年東京オリンピックの聖火ランナーの体験を聞く会」を企画しています。地域の方々のネットワークとご協力で、東京・札幌オリンピック時に聖火ランナー等を務められた、本校出身の方々をお招きして講演会が実現することになりました。内容の濃い志教育になるものと確信しております。また、「行きたくなる学校づくり」を目指した取組として、生徒発信・生徒会主体の行事や保護者と一緒にレクリエーションを、より一層充実させようと生徒・教職員とともに取り組み始めたところです。

まだまだ始まったばかりですが、自分の『強み』を存分に生かして、生徒たちの健やかな成長のため、教職員・保護者が一体となり、地域の方々のご協力を得て、「生き生きとした学校」をつくっていきたいと思います。



## 「平凡の非凡」

名取市立第二中学校長  
木村 啓

この4月から私も校長としてのスタートを切りました。環境も一変し、自分の知らない知識・新しいものの見方を得ることができるというのは新鮮であるとともに、その責務の重さに改めて身が引き締まる思いで一杯です。実際に校長としての職務に携わるとなるとやはり慣れないこと、分からないことだらけで焦りと動揺ばかりが生まれてしまうのが現状です。しかし、そんなときでもしっかりとフォローして下さる先輩方には尊敬と感謝の念に堪えません。今はその姿を目標として、「見る・聞く・考える」を念頭に置き、仕事にも、自分に対しても責任を持ち、自分もゆくゆくは校長先生方にとって少しは必要とされる存在になれるように精一杯努力して参りたいと思います。

さて、最近、以前私が仕えた校長先生がおっしゃっていたことをよく思い出します。

生徒たちの学校生活の中で「平凡なこと」と言えば、毎日の当たり前のこと、例えば、元気にあいさつする。授業で発言したり、板書をノートに写したりする。清掃や係活動、部活動を熱心に行う。そんなありふれた光景を思い浮かべます。

「平凡なこと」というと、大会で優勝するとか、コンクールで入賞するとかそんなことを思い起こしがちです。

ごく当たり前のことを行うこと。この一見、平凡に思えるようなことを、毎日コツコツと続けていくことのいかに大変なことか。

「平凡の非凡」。つまりこの言葉には二つの意味があります。一つは平凡と思えることも積み重ねていけば非凡になる。もう一つは、平凡を重ねていくことこそが、実は非凡なことである、ということです。

本校は、来年開校40年目を迎えます。「平凡なことしっかりとできる中学校」を生徒・職員は勿論、地域と一体となって新たな校風として根付かしていきたく考えています。

## 新任 抱負



## 「しら中 あいさつ4か条」

利府町立しらかし台中学校長  
木下 裕士

4月1日、自治会館での辞令交付、利府町役場への挨拶を済ませ、学校へ向かいました。言いようのない緊張や不安でいっぱいだった私の心を和らげてくれたのが、生徒会や吹奏楽部、教職員による歓迎セレモニーでした。温かな思いに包まれて校長としてのスタートを切りました。また自分を見つめる多くの視線から、責任の重さを感じ身が引き締まり、学校経営に全力を尽くしていくと心に誓いました。

先日の全校集会で「あいさつ」について話をしました。あいさつをすることによって「人間関係がよくなり、会話のきっかけになる。また自分や相手の緊張をほぐすことができる。」というメリットがあることを話し、しら中の“あいさつ4か条”を提案しました。「①笑顔であいさつをしよう。②はっきりとした声であいさつをしよう。③相手の目を見て、声を出してからお辞儀をしよう。④あいさつは毎日続ける。」というものです。

翌日には早速、教職員があいさつのポスターを全クラスに掲示してくれました。朝のあいさつ運動では生徒会執行部の生徒が、“あいさつ4か条”を意識して実践してくれています。

小学校の全校集会に中学生が参加したときにも、しら中“あいさつ4か条”を紹介し、小学校での実践も呼びかけました。

しら中では、今まで以上に気持ちの良いあいさつが飛び交っています。

目の前には、悩みながらも明るくまっすぐな心で前に進もうとする大勢の生徒がいます。また、忙しい中でも、子どもたちとの関わりにやりがいを感じ常に生徒のそばにいる教職員がいます。そんな本校を見守り、支えていただいている保護者や地域の皆さんがいます。

常に感謝を忘れず、これからも元気いっぱいのあいさつが飛び交う、信頼される「しら中」であり続けられるよう校長として誠心誠意努力してまいります。



## 「自分磨き」

大和町立宮床中学校長  
本田 史郎

四季折々の風景が楽しめる七つ森、宮床伊達家、女流歌人の原阿佐緒など、豊かな自然と歴史・文化があふれる地域にある宮床中学校。4月当初、新任校長として不安や焦りがありましたが、本校の教頭や教職員のおかげで、滞りなく新年度をスタートし、早2ヶ月半が過ぎようとしています。

宮床中学校は生徒のほとんどがスクールバスで通学しています。朝7時半過ぎから行う登校指導では、300名近い生徒とあいさつを交わすことで心が和み、元気をもらって毎朝をスタートしています。私自身6年ぶりの中学校現場です。今時とはいえ、中学生にもなれば斜に構えている生徒が少しはいるのではないかと考えていましたが、そんな姿は全く見当たりません。教室や校庭では、授業に真剣に取り組む生徒の姿が見られ、行事や部活動では生き生きとした生徒の歓声があふれています。エネルギーあふれる生徒の姿に触れる度に、中学校に赴任した喜びを実感しています。

昨年読んだ本の中に、人生は「自分磨き」が大切であるという一節がありました。今ある自分自身を認め、自分自身を大切にしながら、夢や目標に向かって自分自身を成長させていくというこの「自分磨き」。生徒にとって学校はまさしく「自分磨き」の場でなければいけないと考えています。特に、中学生という多感な時期に、多くの悩みや失敗を重ねながらも、教師の働きかけで生徒が成長していく。あるいは生徒同士が互いに競い合って励まし合って切磋琢磨していく。そして切磋琢磨する生徒とともに教師自身も自らを振り返り自分を磨いていく。そんな「学校づくり」や「人づくり」を微力ながらできればと考えています。

これからの未来を切り拓き、大和町や宮城県を支えていく子供たちのために、大和町教育委員会のご指導をいただきながら、教職員や保護者、地域の皆さんとともに、私自身も自分を磨きながら精一杯力を発揮していきたいと思えます。

## 新任 抱 負



## 新時代の幕開けに思う

大衡村立大衡中学校長

菊池 信行

小雨が降る4月1日の昼前、私は新たな赴任校がある大衡村に向けて車を走らせていました。途中、どうしても気になることがあり、車を停車させてナビをテレビに切り替えました。間もなく「新しい元号は『令和』であります」との発表が流れました。その後「令和」の出典が、日本最古の歌集「万葉集」からであるとの説明がされていました。学生時代に「万葉集」を専攻していたこともあり、無条件で「いい元号だな」と思いました。そして、自分が教員としてスタートした年に昭和が終わり平成へ、今、新任校長として着任する日に新たな時代「令和」の発表があったことに、不思議な気持ちになりました。

ふと窓の外を見ると「万葉の里おおひら」の看板が目に入りました。なんと、これから出会う生徒たちの故郷は「万葉の里」であったのだ！「新時代・令和」「万葉集」「万葉の里・おおひら」私の頭の中でこの3つがつながり「すごい縁だな！」と、ちょっとワクワクしたことを覚えています。その後、感動的な応援団・各部の生徒たちによるエールと校歌に迎えられ、私の大衡中学校での勤務が始まったのでした。

始業式で「新時代は、間違いなく君たちが活躍し発展させていく時代であるので、目標を持ち、色々なことに挑戦しよう」と話をしました。緊張した面持ちで、うなずきながら話を聞いている素直な生徒たちを目の前にしたとき、「生徒たちが社会に出たときに、活躍できる力を身に付けているかどうかの責任の一端は、私たち教職員にある」と改めて感じ、逆に自分が緊張しました。

豊かな自然環境と恵まれた施設を生かし、協力的な保護者や地域の方々々と力を合わせ、先生方とともに微力ながら校長として責務を果たしていきたいと思います。令和の時代に大活躍する「おおひらっ子」を夢見て。

校長らしさ  
自分らしさ

美里町立南郷中学校長

渡部 恭

出会った最初から、頼るべき存在として「校長先生」と呼びかけてくる職員・生徒・保護者……。待たなして、ふさわしい役割を求められていることをひしひしと感じ、懸命に校長らしく振る舞おうとしていた4月。

今ではもう、演じていたつもりの「校長」に同化してしまったのか、2か月前の初々しかった自分に懐かしさを覚えています。

さて、南郷中は、美里町ののどかな田園地帯に立地する、全校生徒114名の小さな学校です。生徒は落ち着いて生活しており、保護者も協力的です。職員も少ないながら精鋭がそろっており、日々の教育活動が順調に展開されています。

このような学校の現状に感謝しつつ、一方では自分なりのカラーを出していかなければ、と焦りを感じるようになりました。

そこで、今さらながら、自分らしさについて考えてみました。自分の長所を生かすことが自分らしさを発揮することでは、いや、そもそも自分の長所なんて……。

そういえば、入学式で「自分に厳しく、他人に優しく」などと話しておきながら言いつ放しになっていないかと気づき、まずは言行一致を目指して努力することだ、と思い至りました。

- 感謝やねぎらいの言葉を省略せず、常に心を込めて伝える。
- ミスを指摘する際には、必ず改善のアドバイスを添える。
- 職員会議の際、業務遂行に役立つ具体的な情報を、なにか1つは用意する。

いずれも、些細な、当たり前のことですが、これらを一つ一つ積み重ねることが信頼感を生み、職員を育て、学校をよりよくしていくことに通じるものと願い、実践に努めようと思っています。

むすびに、近年、親身にご指導くださった多賀城中の松尾校長先生、古川西中の長沼校長先生に、あらためて心より感謝申し上げます。

## 新 任 抱 負



## いつしかころは

栗原市立栗原西中学校長  
菅原 栄夫

「水面に映る栗駒の 尾根をあゆんで朝に夕  
いつしかころは ふっと軽くなる  
ふるさとの空 ふるさとの人 ひなの道」  
これは、本校校歌「いつしかころは」である。  
4月の着任日に全校生徒が、校歌「いつしかころは」の応援バージョンを大きな声で歌い、私を迎えてくれました。これが私の新任校長としての感動の第一歩でした。

本校には、伝統の三本柱があります。「あいさつ・返事、校歌斉唱、無言清掃」の3つです。早寝、早起き、朝ごはんを始め、あいさつや返事を大きな声で行い、無言清掃など時間を守って主体的に活動するなど、基本的生活習慣が身に付いています。また、校歌を大きな声で歌うなど、良い校風が育っています。この3つを柱として、西中の生徒は素直で明るく、各種行事においては、一人一人が自分の学年を超えて一致団結し、役割を積極的に果たしています。本校は、平成24年4月に一迫中学校と花山中学校が学校再編により統合し、新しい学校としてスタートしました。さらによりよい「西中」を目指し、次のことに取り組んでいます。①チーム西中の醸成・・・放課後の集合、生徒会が中心となり進行・運営する。②読書指導の充実・・・生徒の皆さんも先生方も本を読みましょう。心が落ち着き、心の耕しになる。③ワークライフバランス・・・WORK, LIFE, SOCIAL, 仕事、趣味、地域行事を大切に。

日々の授業を大切に、出張がない日は、ほぼ授業や部活動を見て回ります。このことは、校長としてとても大切なことだと思っています。校長という職責をしっかりと自覚し、一人の責任ある大人として、生徒にも、先生方にも本気になって生き方を示すことが大切であると感じています。一人の校長として、過去の経験にとらわれることなく、日々研鑽に励み、指導力・人間力・学校経営力を磨き、教職員とのコミュニケーションを大切にしながら学校経営に取り組み、笑顔でいっぱい「チーム西中」を目指していきたくと思います



## 30周年と統合

加美町立宮崎中学校長  
小野寺 英一

「朝のあいさつをします！踵をつけてください。姿勢を正して、指先を伸ばしてください！」「注目！」「はい！」「おはようございます！」「おはようございます！」宮崎中学校の朝会時のあいさつです。全生徒がこの号令に合わせて姿勢を確認し、勢いあるあいさつが会場に響きます。いつから始まった習慣か分かりませんが、このような現状に賛否の声があがる昨今ですが、素晴らしい生徒たちの姿だと感じています。

また、本校には、昨年度制定された「三大伝統」があります。①先にあいさつをする「先行あいさつ」、②地域活動に積極的に参加する「ちかつ」、③時間を大切にする「時律」の3つです。全生徒及び教職員がこれを意識し、取り組んでいます。10月には、開校30周年記念事業が予定されており、PTA会長さんを中心に準備しています。

素晴らしいあいさつが継承され、新しい伝統が築かれ、今年度31年目を迎え、これから新しい宮崎中の歴史の始まり！と思いきや、先日、隣の小野田中学校と統合の話が出されました。

私は以前、小野田中に10年ほど勤務しており、小野田中も環境と人と地域に恵まれた素晴らしい学校であることをよく知っております。

いつになるかまだ分かりませんが、この2つの学校が統合したら、両校の良さが融合し、更にはいい学校になるだろうと思いを膨らませますが、現実はどうなるか分かりません。しかしその現実、現在かかわっている我々教職員の影響が大きいということは言うまでもありません。

でも特別なことをやる力はありません。ただ、素直で言われたとおりに行動する生徒、自分で考えて行動する生徒、目の前の、また遠くの、ときには後ろの、斜め前の…。これまでどおり、どの生徒のこともめんこがりたいと思います。全職員で、「生徒がめんこい」話を楽しみたいです。

## 新任 抱 負



## 「教育は人なり」を胸に

気仙沼市立大谷中学校長  
小 松 昭

平成元年に教員に採用されて以来、「教育は人なり」という言葉を大切にしてきました。令和元年に校長の立場になり、あらためてこの言葉を胸に刻み直し、常に生徒が安心して学び、育つ学校経営をしていきたいと思ひます。

4月8日、披露式では2,3年生による気持ちのこもった美しい合唱、「明日を探そう この広い世界で」の歌詞で始まる「Let's search for Tomorrow」で出迎えられ、2年ぶりに生徒と接することができる喜びを心の底から感じました。着任の挨拶の際は、どの生徒も瞳を輝かせながら、真剣に話を聴いていました。この生徒たちの将来の幸せのために、教職員、保護者、地域の方々、関係機関と連携して、これまで以上によりよい教育活動を展開しようと決意するとともに、校長の職責の重さを感じました。

大谷地区は、東日本大震災の大津波により、地域をはじめ、多数の生徒の家庭が家屋の流失や全半壊など甚大な被害を受けました。昨年4月までは、校庭には仮設住宅が建ち並び、教育活動に支障をきたす状況でした。そのような中でも、幼・小・中・公民館が連携し、避難訓練の実施や総合的な学習の時間における「ふゆみずたんぼ」の活動等を実施してきました。真に学社連携、地域連携が充実している地域です。

これからの時代は、将来の変化を予測することが困難な時代に突入し、一人で解決するのが困難な課題が山積していると言われていひます。このような時代を生き抜き、次代を担う人材を育成するために、主体性、自己肯定感、コミュニケーション能力を育成していきたくと思ひます。そのために、「チーム大谷中学校」を強く意識し、教職員一人一人が誠実を胸に刻み、一丸となって、子どもへの愛情、教育への情熱と使命感をもって教育活動に邁進することで、子どもたちの笑顔があふれる、居心地のよい学校づくりを進めていきたくと思ひます。

相手の立場を考え、  
行動できること

石巻市立飯野川中学校長  
菊 池 晃 子

4月1日、全校生徒の待つ広い正面玄関で着任の挨拶をしてから約2ヶ月が過ぎました。4年ぶりで学校へ戻り、新たに与えられた職責をどのように果たしていけば良いのか、自問自答している毎日ですが、生徒や職員の明るい笑い声に励まされています。

本校のある飯野川地区は、古くから周辺地域の交通の要所、郡行政の中心地として栄えた町でした。平成17年、平成の大合併により、学校名が「河北町立飯野川中学校」から「石巻市立飯野川中学校」となりました。東日本大震災では、直接の津波の被害はありませんでしたが、他地区からの避難者の避難所として体育館に最大で350名ほどがヘリコプター等で搬送され、職員が対応しました。また、本校の空き教室を利用して、雄勝中、大川中とともに生活をした期間もありました。

あれから8年が過ぎ、今年度の全校生徒数は79名、学年それぞれ単学級となりました。生徒は落ち着いており、何事にも真面目に取り組んでいます。しかし、小学校からクラス替えがなく、お互いを知りすぎているがゆえの課題もあります。また、震災により被災し、幼少時に他地区から引っ越してきている生徒も少なくなく、心のケアの必要な生徒も在籍しています。そこで、今年度は、周囲に対する「思いやり」を改めて見直すことを目的に、目指す生徒像に「相手の立場を考え、行動できる」という文言を加えました。その具現化の方策の1つとして、生徒会が中心となり「アサカツ！」という取組も始めました。「アサカツ！」とは、生徒が登校して朝の会が始まるまでの間に、「誰かのために何かをしよう」という朝の活動プロジェクトです。毎日昇降口のホワイトボードに手伝って欲しい内容等が書かれています。それらを見て多くの生徒が誰かのために活動しています。また、集会の準備や後片付けなども、意図して役割を決めず、自主的な活動を促しています。生徒は自ら仕事を見付け活動しており、うれしく思っています。

今年1年、皆様のご支援をいただきながら、令和元年の校長として、私らしい学校経営を行っていこうと思ひています。

## 新任 抱 負



## 「新任の抱負」

石巻市立荻浜中学校長  
高 橋 理

荻浜中学校に赴任して2か月が過ぎました。

本校は全校生徒4名の極小規模の学校ですが、生徒たちは少ない人数でも、生徒会活動や部活動、行事等に「生徒数が少ない」ことをできない理由にしないで一生懸命に取り組んでいます。

保護者も大変協力的で4月の入学式には、在校生の保護者も全員出席してくださいました。

東浜保育所、東浜小学校と合同の運動会でも、子供の数をはるかに上回る保護者、地域の方々においでいただき、温かい雰囲気の中、盛り上がりのある運動会となりました。まさに「おらほの地域の学校」であることを実感しました。

素晴らしい自然と温かい地域に囲まれた学校ではありますが、課題もあります。生徒数が少ない中で、いかに社会性や表現力を育成していくか、授業において対話的で深い学びをどのように成立させていくか等は早急に手立てを考えていかなければならないと思います。また、小学生の保護者の方からは「荻中は是非とも残したい。できれば荻中に通わせたい。しかし子どもの希望や将来を考えたとき大きな学校に行かせたほうがよいのかという迷いもある。」という声も聞きました。このことは学校だけで何とかできることではありませんが、地域の声に丁寧に寄り添っていくことは大切であると考えます。

先生方もこれほどの少人数は経験がなく、最初は戸惑いもあったようですが、ある先生の週案に「荻中生は伸びしろが大きく、個に応じたきめ細かい指導が可能なことから、学力向上に向けて努力したい」とのコメントがあり、たいへん頼もしく感じました。

第一回石巻市立学校長会議で教育長先生より、石巻市立学校として

- 確かな学力を保証する学校経営
  - 組織としての対応力集結と共同参画意識の意識改革による学校経営
  - 保護者・地域と連携する学校経営
- を進めるように指示がありました。

地域に根ざし、保護者、地域の声に耳を傾け、確かな学力の育成のために、職員の個性を生かしながらそれをまとめ、チームとして全職員が力を合わせて取り組んでいける学校作りに努力していきたいと思っています。

未来を創る  
人材育成を目指して

石巻市立牡鹿中学校長  
渥 美 寿 彦

辞令を携え、石巻市内から万石浦を経由し、牡鹿半島の曲がりくねった道を車で走っていると、春のきらめく雄大な太平洋が広がり、まるで私を励ましているように思えました。「子供、職員、地域を全力で好きになろう。」改めて、そう決意を固めました。

本校は、平成22年4月、鮎川中学校、大原中学校、寄磯中学校の3校が統合して開校し、今年度で10年目を迎えました。地域は、商業捕鯨の禁止や遠洋漁業の衰退に加え、過疎化と少子高齢化の進行、さらには東日本大震災による被災によって人口流出は深刻になっています。こうした状況もあって、現在の生徒数は26名、開校時の約4分の1にまで減少しています。

「家庭、地域、学校の宝である子供たちを健やかに育てるため、われわれ教職員の英知を結集し、全力で教育活動に取り組んでいきましょう。」年度最初の職員会議で、職員にそう呼びかけました。牡鹿ならではの地域特性と小規模校のよさを生かし、生徒一人一人にしっかり寄り添い、誰もが「牡鹿中っていいな」と思えるような学校づくり、地域の復興と発展に貢献しようとする意志を持つ人材づくり。それが牡鹿中の校長としての大きな使命だと思っています。

復興途上の多忙な日々の中にあっても、教育活動に関心を寄せ、協力を惜しまない保護者や地域の方々を支えられ、生徒は明るい表情で、元気に諸活動に取り組んでいます。また、教職員も地域や生徒の期待に応えるべく、献身的に日々の職務に励んでいます。学校教育目標である「豊かな心、健康な体、自ら学ぶ意欲を持ち、たくましく未来を創る生徒の育成」の具現化を目指して、教職員と共に力を尽くしていきたいと思っています。そして、そのための情熱を持ち続けることはもちろん、的確な論理と分析に基づいた方向性を示すことができるよう、校長として研鑽を積んでいく覚悟です。

## 新任抱負



### 「歴史と伝統」の 継承を目指して

登米市立登米中学校長

小林 信之

3月の内示、前任校の校長室で登米中学校への赴任を告げられました。それまで自分自身では、覚悟しているつもりでいましたが、いざ赴任地を知り「自分に校長の職責が担えるのか」と不安な気持ちが一気に高まりました。新聞発表後、諸先輩方から「校長はその地域の名士、日頃から立ち振る舞いや言葉、一挙手一投足に気を配らないと務まらない」と多くの助言をいただきました。

そして4月1日着任日、私を含め5名の転入職員を、生徒たちが心を込めた校歌で迎え入れてくれました。赴任初日とあって、緊張と不安で心が落ち着かない状態でしたが、この校歌を聴いた瞬間に解決し、そのときの生徒たちの真摯な態度に心から感動を覚えました。

私が赴任した登米（とよま）町は、教育資料館（旧登米高等尋常小学校）、警察資料館（旧登米警察庁舎）、水沢県庁記念館（旧水沢県庁庁舎）など、明治時代を偲ばせる建築物が多数現存しており、その街並みから「みやぎの明治村」と呼ばれています。古くから地域の方々は、故郷登米の歴史と伝統に誇りと愛着を持って生活しています。この故郷を愛する心については、間違いなく本校の生徒たちにも受け継がれており、この「歴史と伝統」を大切にすることを次の世代へ継承することが、校長として最も重要な責務と実感しました。

早速、校長の所信表明で、校訓の「進取・公明・強健」のもと、“自分から”をキーワードに「とよまに誇りを持ち、人を思いやり、未来を拓くたくましい生徒」を教育目標に掲げ、「常に生徒とともに活動する」＝「withの精神」をもって、この目標達成目指して取り組むことを訴えました。

まずは、校長自ら率先して生徒とともに「withの精神」を実践し、故郷登米の「歴史と伝統」を生徒たちが確実に継承できるように、教職員と保護者、さらには地域の方々とも手を携えながら、校長としての職務に一意専心、全力を尽くしていきたいと思えます。

## 編集後記

- 宮城県中学校長会総会において、鈴木一史会長は、開会のあいさつの中で、今年度は「学校からの教育改革の推進」「新学習指導要領への取組をはじめ、変革の時期への対応」「直面する教育課題の解決のため、広く連携・協力すること」の3点について重点的に取り組んでいきたいと話されました。

また、伊東昭代宮城県教育委員会教育長は祝辞の中で、「みやぎの志教育の着実な推進」「生徒の心のケア」「教員の教科指導力の向上」「信頼される、安心・安全な学校づくり」の4点について話されました。

我々校長は、鈴木会長や伊東教育長の話されたことを着実に推進し、宮城県教育の一層の充実・発展に努めていかなければならないことを共に確認し合う機会となりました。

- 13名の校長先生から新任校長としての抱負や感想、随想などについて原稿を寄せていただきました。皆さん、校長としての責任の重さに戸惑いながらも、それぞれが理想とする生徒像や教師像、学校像の実現に向けての熱い思いが伝わってくるものでした。
- 次号は、「第70回全日本中学校長会研究協議会群馬大会」と「第37回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会」の報告を中心に編集して参ります。原稿執筆等、ご協力のほどよろしくお願ひします。

令和元年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立第二中学校内

TEL：022-309-1351

FAX：022-309-1352

E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木 奈美子



宮城県中学校長会ホームページ  
http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/